



思いやりと安らぎを感じられる斎場

水戸市新斎場建設工事



本施設は近年高まる本格的な超高齢社会が到来する中、市民生活に不可欠な施設であると同時に葬儀形態の多様化利便性の向上を目的とし、「全ての利用者にやさしい斎場」「周辺環境と調和した、自然にやさしく安らぎを感じられる斎場」を施設の基本方針と定め、「水戸市の第二斎場」として計画された。

利用目的に応じて広さや設えが異なる多数の部屋があるなど、建物としての特殊性が高く、地元の注目度も高い。2017年の基本構想から2025年の供用開始まで約8年間を費やしたプロジェクトである。



火葬棟（北面）

鉄筋コンクリート打放仕上げのリブを基調とした外装仕上げ。

工事概要

工事名	新斎場建設工事
工事場所	茨城県水戸市下入野町地内
工 期	令和4年12月21日～令和6年7月31日
発注者	水戸市長 高橋 靖
施工者	株木・菅原・雲井・田口建特定建設工事共同企業体
工事内容	敷地面積：29,872.89m ² 建築面積：4,141.44m ² 主要用途：火葬場 集会場（式場） 構 造：鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造



キャノピー

建物に沿ってV字型の形状をしている、歩行者通路車寄せを兼ねた総アルミパネル張り通路。



式場ホール

壁・天井に天然木の練り付け（不燃）を施したルーバー材が織りなす解放感溢れる受付・待合空間。



大・小式場

中央部に可動式間仕切りを配置し、用途に合わせた使用が可能。天井はアルミパネル張り。



告別ホール

壁は石張りで天井にルーバー材を使用し、天井高さ約5.0mの落ち着きのある大空間としている。

担当者の声

本工事は斎場という特殊用途の建物であり、内装には石張りや左官壁仕上げが多用され、天井にはアルミパネルやルーバーなど複雑な納まりや形状が採用されました。これらに対しては、設計図書を基にした綿密な打合せを実施し、納まりが複雑な箇所については部分詳細図を作成しながら、施工者・設計者間で繰り返し協議を重ねることで、手戻りのない施工を実現しました。また、資材価格の高騰や生コンクリートの供給逼迫など、社会情勢に起因する課題が顕在化しましたが、施工関係者が一丸となって対応し、克服することができました。

本工事では多くの技術的課題に直面しましたが、斎場という高度な品質が求められる特殊建築物の施工に携わることができ、技術者として貴重な経験を積むことができたと考えています。

